

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270300033		
法人名	(有)グループホーム ふるさとの家		
事業所名	グループホーム ふるさとの家「城下」		
所在地	〒855-0862 長崎県島原市新湊2丁目丙1830 (電話)0957-64-0578		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成19年12月27日

【情報提供票より】(H19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <del>平成</del> 10 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84 歳	最低	77 歳
		最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立島原病院・島原保養院・スマイル歯科
---------	---------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は長い福祉の経験から、理想を持ち「昔を思い出しながら生きる」を現実にする為、古民家を探し、現在の建物と出会い、長崎県で民間では最先端のホームである。又、認知症ケアの指導的立場として情熱と向上心を持ち、現状に甘んじることなく常に前向きであり、その思いに職員は一丸と成り、明るく笑顔で声掛けながら、外部研修や自主勉強をし、スキルアップに努めている。ホーム内の雰囲気は、何故か何度も来た事があるような懐かしさを受け、落ち着ける雰囲気がある。入居者のゆったりした姿や笑顔は、かつての大家族が互いに寄り添いながら安心した生活そのままである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者は評価調査員の研修講師をされている事から、評価を理解され、前回の評価の改善点に対し、優先順位を付け計画的に改善ができています。居室環境におけるプライバシーに関しては衝立で他の人に見えないように工夫等、早々に取り組み、今回の評価時はメモを取り、外部の他者から学ぶ姿勢が窺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を職員全員に配布し、記述後に全員でミーティングを開催し、日々のケアに関する事を正確に記述している。項目を職員が理解する事で、評価を勉強の場に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の構成メンバーが多忙であり、日程調整に困難をきたしているが、2ヶ月に1回確実に開催している。入居者の様子や行事に関するお知らせを含め、参加者からは忌憚のない意見が出ており、地域の人の声やグループホームの事を理解して頂き、成果が少しずつ上がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時や行事の参加時に声掛けをし、気軽に話しをしている。あまり意見や要望の申し出はないが、毎月個別に送付する手紙の中に、何時でも聞く体制があることをお知らせしている。又、事ある毎に傾聴する体制がある事を前面に出し、家族から本音の聞ける取り組みを工夫している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	住宅地の一画にあり、庭に出ると近隣の人と顔を合わせる事があり、気軽に挨拶を交わしている。町内行事(清掃・自治会)には出来るだけ参加し、ホームが開催する祭りや音楽祭には声掛けをしている。又、年2回、子供との交流会を開催し、多くの参加者があり、入居者の経験豊富な知恵により、夏休みの工作を一緒に作成し、家族から感謝されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を「老いても障害を持っても 当たり前、自分らしく 普通に暮らしたい」と掲げ、住み慣れた地域の中でその人らしく穏やかに生活し続ける事を前提に理念を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で話し合いを行い、独自の介護理念を作り常に見える処に掲げることで、共有が出来ている。入居者のどんな事をしたいかを把握し、その人のペースで理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街に建てられており、庭に出ると近隣の人とは気軽に挨拶を交わし、行事(町内清掃・自治会)には出来るだけ参加している。ホームに来られる事も多く、祭り・音楽祭には声掛けを行い、年2回の子供との交流では多くの参加者がある。又、入居者の経験豊富な知恵で、夏休みの工作を作成し、家族から感謝されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解され、自己評価表を職員全員に配布し、記入後に管理者が集約して詳細に記入し、項目の理解に努められている。又、評価後は会議を開催し、改善計画シートを作成し、計画的に確実に改善されており、充実した取り組みである。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成メンバーは皆さん多忙であり、日程調整は困難をきたしているが、2ヶ月に1回、確実に実施している。参加者からは忌憚のない意見が出ており、地域の人々の声やグループホームを理解して頂き、成果が上がっている。		

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は認知症ケアに関する指導者の立場であり、市町村の要請で話をする機会が多く、密接な交流が図られている。権利擁護事業を利用している入居者もあり、連絡体制が確立している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回、ホームでの生活を総合して便りでお知らせし、個別には担当職員が日常生活・健康面・その他を記述した手紙を毎月送付している。変化が発生すると電話により報告をしている。又、金銭管理は領収書を渡し、確実にやっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事の参加時に声掛けをし、気軽に話をしている。あまり意見や要望の申し出はないが、毎月送付する手紙に何時でも聞く体制がある事をお知らせし、傾聴の姿勢を前面に出している。外部評価の家族アンケートで本音の意見が聞けているのであれば、誰の記入か分からないように報告があれば、運営に反映したいと願われている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は殆どなく、忘年会や反省会等、コミュニケーションを取り、互いに支えあう協力体制が充実している。法人内の異動は時々あるが、合同行事や交流を図ることで入居者とは顔馴染みであり、スムーズに受け入れられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は可能な限り受講し、参加者は報告文を作成し、ケア会議で発表と参考書類を職員間に閲覧し周知を図っている。内部は法人全体の研修があり、向上心を常に持ちスキルアップに努めている。又、資格取得に向けての協力体制が確立している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は島原半島におけるケア研究会の指導的立場であり、職員は研修やスポーツ交流に参加する事で、他のグループホームとは顔馴染みであり交流が取れている。又、他ホームの行事に参加したり、来られる事も多く、相互訪問で質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は家族のみでなく本人が来られるケースが多く、昔ながらの雰囲気を持つホームを一目見て気に入られ、体験入所からそのまま入居に繋がることが多い。又、自宅を訪問し生活ぶりを理解し、安心して過ごす為に努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中心が入居者であり、障子貼り・つるし柿・畑仕事等教えて頂く場合が多々ある。又、共同生活の中で、人に対する優しい気配りを感じる事が多く、人生の先輩として敬意を払っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報・・・で心身の情報を詳細に記述し、生活歴として活用し、全体像を把握している。情報を踏まえて、入居者の立場に立って考え、個別の生活支援を実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議を開催し、入居者の日々の生活や家族から訪問時に聞き取りを行った事を基に、サービス内容を詳細に決め、実践可能な計画が作成されている。基本情報に本人と家族の希望が記述されているが、計画作成時ではなく入居時のものが多く、主訴の理解には不足である。又、家族の同意の記名はあるが日付はない。		計画作成に当たり、入居者と家族の希望や意向を明確にすることが必要であり、介護計画の書式の中に記述欄があると分かり易く、計画の作成時には主訴を引き出す取り組みを期待したい。又、同意欄に日付の欄を設けられる事が望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々介護面でのキーワードに沿った記録や、毎月のモニタリング表でチェックし、入居者の状態を正確に把握し、担当者会議で検討を行い、現状に即した計画の見直しが実施されている。又、状態変化時も同様である。		

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に沿って、医療連携・病院受診・内科や歯科医の往診・家族の宿泊・通所介護・重度化に伴う終末期の支援・生け花教室等、多機能性に富んでおり、柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望する医療機関や、提携の医療機関への受診を支援し、必要に応じて往診や認知症の専門医への受診を支援している。又、適切な医療が受けれるように密接に連絡を取り、気軽に相談できる体制の確保ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する指針を明確にし説明し、開設以来4名の看取りを行っている。それぞれケースバイケースであり、一旦、入院されてからホームに帰られている。又、自宅の場合は職員が出向き支援し、家族・医師・職員が意思統一を図りながら支援をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関しては、常に指導と話し合いを持ち、排泄時の声掛けや失禁時は他の視線に注意し、衝立の準備や居室誘導に心がけている。記録は離れた場所のテーブルで行い、放置することはない。又、外部に漏らさないことを徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、その人のしたい事を中心として、行きつけの理美容や縫い物や草履作りに励みながら、毎日を楽しく、希望が持てるように、事業所の都合に合わせることなく柔軟に支援している。		

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜が食卓を飾る事があり、好みを取り入れながら、食事に関する一連の作業を出来る入居者と一緒に行っている。出来上がると一緒に食卓を囲み、話題の多い大家族の食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を取り入れながら、失禁時は朝からの場合もあり、拒否者には「小浜温泉ですよ」と声かけに一工夫しながら、入居者の状態に合わせて、週2回以上支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人ができる事(カレンダー捲り・草取り・神棚の水替え・掃除・洗濯物たたみ・草履作り・生け花教室等)を率先してすることで、喜びを持ち、張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は日常的にされており、日々の散歩や買い物や水汲み等の各棟での外出と、花見・紅葉見物・三社詣・イルミネーションの見物と機会がある毎に一緒に外出を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行っておらず、夜間の戸締りのみである。現在の入居者は落ち着いておられ、勝手に徘徊する事はなく、職員が互いに連絡を取り合うことで、所在確認を行い見守っている。又、緊急連絡網を明確にしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立会いで消火・避難訓練を地域の消防団や近隣の住民の協力を得ながら実施している。又、防災管理者を決め、点検表に記述し、常に注意を払っている。地震や水害等の天災に対する訓練はなく、非常時の備蓄や持ち出し品の把握状況も不十分である。		災害を様々な方面から考え、地震や水害や噴火に対する自然災害を視野に入れた訓練や、それに伴う災害時における備蓄(水は汲み置きされている)状況や持ち出し品の確認・把握を期待したい。

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者で食事制限が発生すると、職員・調理担当者が病院に行き調理指導(例・加熱食品・減塩)を受けている。又、嚥下や咀嚼を考慮して、刻み・ほぐし・粥等食べ易くしている。水分は不足に注意を払いながら支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭や玄関の段差や下駄箱、2部屋繋ぎの居間等正に入居者が生活されていた嘗ての生活空間である。古民家改造であるが、嫌な臭いはなく日当たりが良く、落ち着いた雰囲気、軒先のつるし柿や生け花で季節を感じる事が出来、居心地の良い共有空間が提供されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	嘗ての大家族は「衣食住を共に」の生活が基本であり、相部屋や日中は居間として使う部分が居室であり、個人の生活用品は個々に置き、ホーム全体が一つの家庭として生活されている。互いの存在が安心した生活の根底に成っている。		